

週5〜6日はバイト

ここにいるよ

沖縄 子どもの貧困

③

手際よく商品のバーコードを読み込み、客におつりを手渡す。県立高校1年のサキ(16)は、スーパーでアルバイトを始めて9カ月。レジ係ぶりがすっかり板についている。

入学式の1週間後には働き始めた。午後4時に授業を終え、その足でバイト先に向かう。平日の勤務は午後5時から9時まで。週末は8時間働くこともある。週に5〜6日は勤務している。土日の休みは月に1日程度しかない。

バイト中は立ちっぱなし。接客マナーが身につくなど、いい社会勉強になるが、疲れる。

「学校ではだいたい寝てる」中学のころは自宅でもよく勉強したが、バイトの後は疲れて、勉強する気力が出ない。高校入

学当初は上の方だった成績が50番ほど下がって、中ぐらいになった。

友人に誘われても、遊びに行くこともままならない。「やりたいことはいっぱいあるけど、本当に時間が足りない。時間があつたら、好きな本を全部読みたい。ギターもおもしろそうだし、勉強もしたい」

アルバイトを始めたのは、「家計を助けたい」という長女らしい気遣いと、欲しいものを買いたい、自分の携帯を持ちたいという高校生らしい理由からだ。

7人きょうだいの一番上で、年子の中学3年から4歳までの妹や弟がいる。父親は農業に就いていたが収入が不安定で、季節労働のため県外に行った。母

親はスーパーで働いていたが、体調を崩し、現在は働いていない。家族仲はよく、毎日にごやかだが、9人の大所帯で、家計は楽ではない。

毎月のバイト代のうち1万5千円を家に入れ、1万円を将来



アルバイトを終え、自宅でくつろぐサキ。午後9時半に家に着き、食事やお風呂をすませると午前0時を回っていることが多い

運転免許を取るためにためている。携帯代も毎月、自分で支払う。家に入れたお金は、家のマイカーのガソリン代や弁当代に充てられている。

残りのバイト代で、図書館には置いていない携帯小説や漫画を買うのが楽しみだ。

大学に進学したいと考えているが、気掛かりは学費のことだ。「もし合格したら、1度休学して、働いてお金をためてから、大学に行く」というシミュレーションを描く。

同じように経済的に厳しい同級生と「援助金みたいなものがあったらいいよね」と話すことがある。

忙しい日々の中、目の前のことに追われて、先のことが見通せず、不安になることが時々ある。「将来もたぶん、今のような感じで仕事に追われるんだな、って感じがする。5年後、何しているのかな」とつぶやいた。

(文中仮名)
〔子どもの貧困〕取材班・高崎園子 〓火々木曜日掲載

家計を助けたい 時間足りない

記事に関するご意見、情報をお寄せください。

ファクス：098(860)3483 メール：kodomo-hinkon@okinawatimes.co.jp